

1.3 環境への影響予測

橋梁計画地は、江戸川放水路内に形成された海の環境とも真水の環境とも異なった河川汽水域であり、河口の水辺環境を反映した生物相になっている。生息する生物は、生息環境や餌環境などから、汽水域の干潟のある環境に依存する種が多く確認されている。本地域の重要な自然環境は、干潟環境であり、特に干出面積が大きく泥干潟の発達している右岸側の干潟環境及びそこに成立している生物群集が重要であると考えられた。

この干潟環境及びそこに成立している生物群集に対して、工事实施によって表 1-4 に示す影響が及ぶ可能性があると考えられた。

表 1-4 事業によって想定される影響

工事段階	影響
施工時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 橋脚工事による底質の巻き上げ、コンクリート打設による pH の上昇 ・ 橋脚設置による周辺部の地形変化やシルト粘土分の流失 ・ 周辺で工事を行うことに伴う干潟部への土砂の流入 ・ 浚渫箇所の貧酸素化 ・ 水質変化や泥の流失などの底質変化によるトビハゼをはじめとする底生動物や水鳥類の減少
供用時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水鳥類の逃避（橋体そのものや照明による影響）